稲川支援学校進路だより

ステップ

令和８年度　第６号
令和８年１０月　１日
秋田県立稲川支援学校
進路指導部　発行

令和8年度　特別支援学校生の雇用創出・就労促進事業

『働きたい』『暮らしたい』を叶える「いーなミーティング」職業教育研修会

８月２１日に、地域企業や就労系事業所の方々を講師としてお招きし「職業教育研修会」を開催しました。第１部では企業や事業所における「障害者雇用の取り組みや職場定着に向けた支援について」の講義を伺いました。第２部では「早期からの職業教育のあり方」をテーマにワークショップを行い、就労に向けて育てたい力や、今後の指導・支援について活発な意見交換が行われました。

今回の研修で得た講師の皆様からの助言や視点を、日々の授業づくりや現場実習、関係機関との連携に活かすことで、職業教育充実へのヒントが得られた研修会となりました。







【第１部　事業所からの講演】【第２部　グループワーク】

雇用創出・就労促進事業について、本校では、「事業協力校」として令和8年度、令和9年度を通して早期からの職業教育の推進についての活動を進めていきます。10月30日には、地域企業への障害者雇用促進に向けた情報発信、関係機関連携と意見交換をねらいとした、「稲川支援学校見学会」を開催いたします。

各学部の進路に関する学習

本校児童生徒は、将来、社会生活を送る上で必要な力を身に付けられるように、日々、学習に励んでいます。今回は、各学部で取り組んでいる進路学習について紹介します。

小学部の取組

中学部に向けた学習

小学部では、社会生活につながる行動を身に付けるために日々の学習に取り組んでいます。「特別活動」「生活単元学習」「日常生活の指導」「自立活動」「特別活動」などを中心に教育活動全体で自立的な生活の基礎となる力を育んでいます。

働くことの理解や意欲を育てるために、人から褒められたり、喜ばれたりする体験を通して、認められたり、役に立ったりすることの喜びを感じる経験を積み重ねています。

小学部段階で積み重ねた経験は、中学部での学習や活動の基盤となります。小学部から中学部へ、そしてその先の社会生活へつながっていきます。





中学部の取組

作業学習





＜高等部の実習報告会を見学する中学部生＞

中学部では、小学部にはなかった「作業学習」が始まります。生徒の働く力を育てることを目標に、「手工芸班」「リサイクル班」「陶芸班」の３つの作業班で学習しています。そして、道の駅おがちの「カフェボスコ」でアンテナショップを運営し、年２回行われる作業学習週間の締めくくりとして、製品の納入活動や販売会をしています。

作業学習では、働くことの楽しさや大切さに気付くことや進んで人のために働こうとしたり、友達と共同して働こうとしたりする力を育てることを目標に、社会に出て働くための基礎となる力をつけたいと考えて取り組んでいます。また、高等部卒業後の進路についてイメージできればと、今年度から全学年が高等部の実習報告会に参加し、校内実習や現場実習の様子を聞く場を設けています。真剣な表情で高等部生の報告を聞いていて、社会で働くことを身近に感じるよい機会となりました。

高等部の取組

作業学習

１年生は、自分たちの卒業後は、どのような進路があるのか、卒業後社会人として働くためには、どのような力が必要なのかを知るために、「職場・施設見学」を行っています。「職場・施設見学」では、先輩たちの進路先を訪問し、実際の仕事を見学することで、「どんな進路先や仕事があるのか」が分かりました。また、見学先の方の話を聞くことで「働くために身に付けたい力」「社会人としての心構え」も知ることができました。

２年生は、道の駅うご「端縫いの郷」、イオンスーパーセンター湯沢店の２カ所でアンテナショップの運営を行っています。校内準備では数の間違いがないよう丁寧な発注、納品数の確認を行っています。また、バーコードシールも間違いがないよう、慎重に貼っています。作業学習で作った大事な製品を傷つけることがないよう、優しく扱うことを心掛けています。各作業学習班と連携した商品管理、運営当日の時間管理、お金の計算、お客様とコミュニケーションをとりながらの商品のPRなど、ショップ運営に関する様々なことを学習しています。

３年生は、保護者と一緒に、「いーなミーティング」を行います。高等部卒業を機に、学校生活から社会生活に移り変わる時期を「移行期」といいます。このミーティングは、その移行期に様々な支援をしてくださる関係機関（応援してくださる福祉や労働等の関係者の皆さん）に集まっていただき、高等部３年生が、自分の進路希望を発表することで、お互いに知り合い、情報交換をすることを目的としています。将来の社会参加に必要な知識を得ると同時に、相談できるところが多くあることを知ることができた大変貴重な機会となりました。

